

○第12回県政ひざづめ談議の結果概要

開催日時	平成25年11月20日(水) 午後3時から午後4時40分頃まで
対話テーマ	県産材の安定供給について
対話場所	中央市 「山梨県森林組合連合会 会議室」
参加者	山梨県素材生産事業者協議会 10名
参加者の 主な発言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民有林の集約化を行いながら、FSCの認証を取得して、付加価値の高い木材生産を目標に事業を展開している。</li> <li>・山梨県産材は、他県で評価されており、丸太が県外に流通しているが、地産地消ということで、山梨県の木は山梨県で使いたいと考えている。</li> <li>・大手の需要に対応できる大規模な木材乾燥施設が県内にあれば、原料としての丸太を県内に出荷することが可能となり、輸送コストが削減できる。</li> <li>・FSCの認証材などをもっとアピールして、市場に出していけば、県産材の安定供給につながるのではないか。</li> <li>・本協議会を協同組合化し、事業の拡大、事業量の確保に努めていきたい。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
知事の 主な発言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆さんには、日頃から県産材の有効活用のために、ご努力をいただき感謝申し上げます。</li> <li>・県内の人工林は非常に成熟し、有効活用する必要性が高まっている。一方、ハウスメーカーは、国産材を使用する流れになっており、県産材の活用にフォローの風が吹いている。</li> <li>・皆さんは、木材を生産するだけでなく、自然林を生かしながらきちっと造林し、山を強くしていく、非常に大事な仕事をされていると思う。</li> <li>・山梨の木は非常に評価が高いということが分かったので、桂川流域材などブランド力を高めながら、県産材の市場拡大に向けて努力をしなければいけない。</li> <li>・本協議会の協同組合化については、積極的に応援していきたい。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>